

SIU Board Of Chairmen meeting の概要 2006年11月11日

Capetown International Conference Center 敬称略

1 最初に議長の MacAnich が会議の冒頭に、Resnick 先生が白血病で化学療法中であることを報告した。

2 前回の Atlanta での議事録を確認した。

3 ICUD と SIU の関係について Elhilali と Abrams が発言した。ICUD とは対等の関係で、今後ガイドラインの作成などについて提携しながら関係を深めていくことが確認された。どちらがどちらを吸収するというのではなく、Steering Committee に積極的に参加していくことが確認された。当面は上記両者が SIU の立場から発言していくこととなった。

4 SIU の Nominating Committee(Michael Rochford)から新しいメンバーを2名 BOC で推薦するように提案があり、Reynaldo Gomez(チリ)と Chris Heyns(南アフリカ)が推薦された。

5 General Secretary の Elhilali から事務報告がなされた。

(1) SIU の Central Office は5名の事務職員がいるが、カナダ泌尿器科学会の仕事もしており、人数が足りないと報告があった。事務所の経費の三分の一は後者が支払っているとのことであった。この件でフランスの Richard Fourcade から、事務所をはっきり切り離すべきであるとの発言があったが、できるだけ会計処理を明瞭にしていくことで議事は終了した。

Executive Secretary Mr Richard Bolton

Scientific Program Ms. Valerie Guillet

Congress Management Ms. Martine Coutu

Industry Liason Ms. Susie Petmsa

IT expert Mr. Capaldo?

(2) SIU の US に対する税金対策として Non-profit organization であることを申請中であるとの報告があった。

(3) SIU の会費について前回からの審議事項であるが、現行の会費からさらに20%を値上げすることが確認された。現在の会費はその国の GDP と WHO の統計から ABC の三つのランクがあるが日本は A ランクなので100ドルが120ドルになることとなる。

(4) SIU の学会誌は Urology となったが、2007年の1号から SIU のロゴマークが表紙に載ることになった。また毎年1回は SIU の特集号として出版されることが決定された。Urology の Editor in chief は今度誰になるか未定であるが編集委員会に BOC から Thueroff が参加しているので、SIU の意見を反映させる努力をすべきであるとの意見が出された。また、2年間 SIU の会費を支払わない会員には督促した上で Urology は郵送しないことが確認された。アジアで会員数を大幅に伸ばしているのはインドであることに注目

すべきと考える、

(5) SIU の公認の Training Center について討議された。日本では杏林大学のみであり、今後あらたに日本を含め東アジアでの施設申請が必要となると推察される(私見)

(6) アステラスから10万ドルの寄付があり、SIU lecture を EAU, AUA でやる時の資金にしていると報告があった。Jerome Richie が来年の AUA で SIU lecture をやることが報告された。EAU での SIU lecture は Rainy Umbas と決定されたと報告があった。

6 会計報告 Richard Foucade から US ドルでの会計報告があった。ハワイでの Registration の会場費収入は1,407,000ドル寄付や展示収入は1,869,000ドルで、支出は2,090,000ドルであった。利益差額はすべて Central Office に還元された。Official Journal を Urology としてからの出版にかかわる費用は219,000ドルから101,000ドルに減少した。学会の現在の純資産は3,918,000ドルである。学会総会ではカナダドルでの会計報告を行うこととなっている。今後、資産をどのように運営するかに関して、いくつか議論があった。学会の総会を運用するのに、必ずしもハワイのようなわけにはいかないことがありうるので、いまでも十分ではないことが事務局から説明があった。実際にケープタウンの総会には500,000ドルが支払われている。また、参加費を安くするためにもこの資産を使うこともあるとのことであった。

7 総会の予定 2004年以降は SIU を企業に認知させるために隔年大きい総会を開催するのに加え、その間の年は小さい総会を開催することに決定されている。

2006年のケープタウンでは参加費が1,745,000ドル、寄付金が1,243,000ドルの予定であり、会員の参加人数は560名、非会員の参加は2149名であると報告された。アジアからの参加者で多い順でいくと、韓国、インド、日本の順である。

2007年9月のパリの総会の事前登録の締め切りは5月13日、抄録の締め切りは4月5日となっている。今回の会計はすべてユーロベースで行うが、会計処理が換算レートの変動で大変な事務局の負担になるとも報告された。主な宿泊施設は Concorde-Lafayette と Le Meridien hotel である。ICUD の Consultation 会議では Kidney Tumor & Stone Disease が開催されるとされている。すでにゲストスピーカーには招待状が発送されはじめている。東原理事が日本からのゲストスピーカーをできるだけ採用してくれるように交渉している。

2008年は比較的小さい総会であるが、Oncology をテーマに2008年9月28日から10月1日の間にチリのサンチャゴで開催されるとの報告があった。しかし同期間にニューデリーで UAA が開催されることが決定しているので、開催時期を前後に変更するように要請があった。

2009年は北京の予定となっているが、事務局と北京との連絡がうまく取れていないと報告があった。会長は Yinghu Guo で副会長が Yangun Na である。今回の総会の開催中に北京からの代表者と話し合いがもたれる予定である。場合により日本での開催も考えら

れるとのことであり、JUA は今後数ヶ月間の経過を注視していく必要がある。

2010年は比較的小さい総会をドイツで開催される予定。場所は未定。

2011年は大きい総会をカナダのバンクーバーで開催することに決定した。

最後に World Urological Oncology Federation の設立と SIU との関係について報告があった。WUOF は Uro-Oncology に関する診療方針、教育、研究、将来への方策などについて討論するための Forum であり、12の各国の同様な学会の集まり (Federation) で個人会員はないとのことであった。理事は各国の代表者で (日本から赤座先生、東南アジアから Chris Cheng)、機関誌は J, of Urologic Oncology と決定されており、SIU の総会の折に Affiliate meeting として開催される方向であるとのことであった。

この SIU の Affiliate 学会を Bylaw に反映させるために、SIU の Bylaw を Affiliate status 一部改変した。

SIU の Subspeciality meeting とは意味が異なることに注目したい。

8 その他の事業

SIU のその他の事業としてブラジルで尿道形成術のワークショップが開催され、その講師派遣の援助、インドから東アフリカのタンザニアへのトレーニング講師派遣の援助、ザンビアのトレーニングセンターへの講師派遣の援助、について討議し決定された。

9 各部会からの報告があった。この中で Paul Abrams から 2008年にパリで Incontinence に関する Consensus Meeting があることが報告された。

SIU 会員数は 2900名であり、今後は会員数に応じた人選を BOC に反映させることも議論された。

10 最後に、今回で BOC の任期が満了する Elhilali, Valiquette, Thueroff, Fourcade, Higashihara 諸氏に感謝して議事を終了した。